

WRI 国際通信

1976. 7

イスラエルのCO

WRIイスラエルのニュースレターによれば、ドルーズ出身のナチム・アリは、いま軍刑務所にいる。

彼は徴兵されたが兵役を拒み、アラブ人として、自分の兄弟たちと戦いたくないと云った。もう一人のドルーズ出身の召集兵は、さきに予備兵としての勤務につくのを拒否して投獄され、召集解除で出獄していたのを、再度徴集された。しかし彼は今回も拒否するだろう。

☆

☆

☆

このほど八人のAエホバの証人V

COが、イスラエル軍刑務所から釈放されたことが判った。

彼らは七五年十二月十九日から釈放されるまで、軍服の着用を拒みとおし、寒さを防ぐために毛布にくるまって闘った。この拒否行動で、四人は独房に、残りは他の受刑者から非愛国者としてなぐられつづけた。

オランダとフランスのCO

いまオランダ軍当局に対し、二人の戦争抵抗者がハンガーストライキに入っている。ゲル・ボウウは四週間断食をつづけている。

☆

☆

☆

フランスでは、テイエイイ・オーシエは、ハンストに入っていたが、衰弱のまゝ陸軍病院に拘留され、裁

判をうける。

アメリカ大陸横断平和行進

一月三十日ウキアから出発した六十名の集団は、サンフランシスコに向う途中、コンコルド海軍兵器貯蔵所を出た小集団とぶつかって一つとなり、バークレーに到着して、カルフォルニア大学構内にあつまった大陸横断グループに合流した。

ダニエル・エルスバーク、イングリ・ケリ女史(バークレー会議ラジカル女性メンバー)らは「随時にたとえ数キロでも、共に歩こう」と呼びかけ、そこで三、四百人を加えて発進、ゴールデン・ブリッツを通り過ぎて翌三十一日サンフランシスコ。ユニオンスクエアを出たときには千

名にふくれあがっていた。

その日も暮れる頃も、なお三百名の人たちが行進をつづけ、その次の日は、ほとん百名が残って、その夜は新式トリデント潜水艦をつくっているロッキード工場にデモをかけ、一夜坐り込みを行った。

一方この行進開始の行事の一つとして、サンタクルツでは八平和と正義の祭典Vが開かれた。喫茶店、研究集会、音楽と朗読詩の集りが諸グループで企画されたほか、女性だけで進められた集りもあった。

その後の行進は、二月二十二日エール・ディアブロ原子力発電所へと進み、構内に入ったため八名が逮捕された。行進は全体会議でこの行進のやり方とその発展を検討、評価し、さらにデアブロ・キャニオン原子力

発電所へ向けて、あくまで原子炉の存在に対して、非暴力直接行動として静かな断固とした坐り込みを目指して進むと発表した。

この行進のその後のニュースについては左記へ
WRL, 339-
Lafayette Street, N.Y. 10012, USA

ヨーロッパ反軍国主義行進

一年半前に開いた反軍国主義ヨーロッパ会議の後、WRIはいまや再び結集して、軍と対決する時期を迎えた。

WRI実行委員会は、きたる八月東フランス、ベルダンを目的地とした反軍国主義国際平和行進を主催すること、そしてこの戦闘的デモンス

トレイションへの参加を各国部会と個人に要請することを決定した。

行進が、その目標とする地方は、極度に軍事化されており、無数の兵舎があり、最大距離一五〇キロの性能をもつ、フランス戦術核兵器が多数配置されている。それは広島に投下された原爆にひとしい破壊力をもっている。これらの戦術核兵器は一体どこへ向けられているのか？ベルギーか、それともドイツか？それがどこであれ全世界の人類をねらっているのである。

ベルダンは、ヨーロッパ軍国主義にとって象徴以上のものである。ここで数十万の人たちが、全く無意味に死んでいった。しかも、その地に埋葬されているむくろには、多数の第三世界や、植民地から徴兵された

速い国の人々が多数含まれている事実は、フランス軍部がどのようになれを美化し正当化しようとも、こまかしくない真実を語っている。

ベルダンが軍国主義信仰の、ヨーロッパにおける大本山である。そして我々の行進が掲げる

「どのような条件もなしの全的な良心的兵役拒否の権利

一、軍事的支出を日常生活費へ

一、国家間のあらゆる軍事的とりぎめの破棄——の目標は、まず悪意と愚劣な嘲笑をもって迎えられるだろう。しかもそれゆえにこそ、我々は勇気をもって、そこへ行進しなければならぬのだ。

またこの行進は、すでに進行中のアメリカ大陸横断徒步行進が、世界各地それぞれにおける連帯行進の呼

びかけに呼応するものであり、戦闘的平和主義の行動が、国境を超え大洋をへたてながら結びあっていることの偉大な誇示である。

WRIの提唱によりすでに組織委員会が生れ、イタリーではハバルテイティオ・ラジカルVと国際共同抵抗運動が参加し、いくつかの組織が支援体制をつくった。行進は六月二十八日北イタリーからはじまって八月一日まで、フランスは八月四日メツツに結集してベルダンへ向い十日まで、さらに八月十三日イタリーサルディニアで十七日に終る。

この行進の参加者は、交通、移動物資運搬のため、次に連絡を。

L.O.C. Via di Torne Argentina
1800/186 Roma, Italy

オペレーション・ナミビア

一九七六年五月はじめ、一隻の船が英国ポートマウスから、ナミビアへ向けて出航した。その積荷は世界各地の団体や個人からあつめた数千冊の本である。

それらの本のほとんどは、南アフリカ政府によって禁じられている、アフリカに関連するものであり、とくに白人政府が意識的にナミビアの人から奪ってきたナミビアとその周辺の歴史、経済、政治運動、農業技術に関する著書であって、ナミビアの人々が猛烈に求めているものである。

それらがナミビアの人々にひろがるとき、ナミビア解放闘争ははかり

しれぬ大きな力をうけるだろう。

だから、この船の使命は、南ア政府と占領軍のどのような干渉をもゆるさずに、公然とこの凶書を配ることにある。すでにナミビアの人々はこれに呼応して、受入れの図書館を準備しはじめている。

☆ ☆ ☆

ナミビアへの航海は約三ヶ月かゝる。途中ヨーロッパ各地の港で、さらには本を積み込み、活動家たちを乗り込ませる。

その進行状況は、刻々短波で送られる。船がナミビアに近づくころ、人々は南ア政府が、それに対してどう動くか、多くの関心をもって見守ることになるだろう。

南ア政府がもし、この船を武力で停船させるならば、支持グループは

全世界でキャンペーンに立上る。その対応の作戦はすでに用意ができている。また乗組んだ活動家たちは、この積荷をナミビアに持込むためのあらゆる方法を検討している。

☆ ☆ ☆

ナミビア作戦は、非暴力直接行動による、暴力国家へのちよう戦である。南ア政府が言明する抑圧行為の自制が、果して偽瞞でないかどうかは、この平和で人道的な積荷が、何の干渉もなく持込まれるかどうかに象徴されるだろう。私たちのこのように譲歩的で温和な方法は、それゆえに一そう劇的で印象的行動として効果を生むだろう。と共にこの航海が示す超国家的で開放的な組織と非暴力直接行動は、人々の新しい連合的闘争の方法をも示唆するもので

ある。

南アフリカ白人政府は、M P L A の南部への前進を阻むことに失敗した兵力を、ナミビア国境へと移動した。その駐留の名目は、ルアカナダムとキニーネ資源の保護だと云い、あるいは南西アフリカへの攻撃を防ぐためと云う。だが南ア政府はナミビアに如何なる権利も持たない。国際裁判所の決定と同様に、国連総会も「南アが無条件でナミビアからの引揚げを求めている。」にもかゝわらず、もっとも鉱物資源豊かな地域を五十年以上も占領しつづけているのである。

ナミビアは約九〇万の黒人有色人種と十萬の白人が住んでいる。住民の大部分は南ア S W A P O とその影

響下のナミビア国民議会の支配を拒否している。

しかも南アの軍隊は北ナミビアを占拠し、少数派である白人による黒人大衆の圧迫と奴隷化政策を推進している。

オペレーション・ナミビアはこの南アフリカ体制に正面から挑戦し、

内部のナミビア解放勢力と呼応して、南アの違法、不正義をゆるしている人々との対決、その告発をも進めるものである。

(付) マカオに碇泊中のフリー号からも、この作戦参加のため、急拠ロンドンへ二名が飛んだとのしらせ

があった。がその後入国がゆるされず、香港へ強制送還されたという。
(訳出。WR I 外信部。原子)



☆ この会に出た人に、ささやかな何かと動きだす、あたらしい変化が生れる—そのきっかけになるような集り#をつくりたい。

この出会いの場が—みんなみんな心を開いてうちとけるとまでいかずとも—たとえば偶然となり合せとか真向いに坐ったひとと、会の進行そっちのけでひそひそ話がはずみ、名前やところを知らせあう、というふうになることを期待したい。

部屋のすみで終始だまっていた人も、とてもたくさ

んしゃべった人も、みんな同じく、帰り途、ポケットにリングの重みがひとつづつはいってるのに気付く—そんなおもいがする会をつくり出したい。

ともかく、できるだけさっくばらんなあなたとぼくの時間をもつために、まず体をやわらかくして、出かけて下さい。やあ—と気軽なく戸をあけて…

(直接行動読者会案内状)